

第56回中四国大学空手道選手権大会に寄せて

〔 理事長退任の挨拶も兼ねて 〕

中四国学生空手道連盟

理事長 波多 洋治

今年の夏は殊の外厳しい暑さでした。学生諸君は、志高く暑稽古に精進され、本大会を迎えたことと存じます。どうぞ悔いのない、思い出に残る有意義な大会となりますようご期待申し上げます。

さて、7月初旬から梅雨前線が、中四国一帯の上空に長く停滞し、凄まじい豪雨をもたらしました。平均7月降水量の2倍を超える400mm超の雨量が、わずか24時間のうちに降り続けました。豪雨は、堤防の決壊による洪水や山腹の崩落に伴う土砂災害をもたらし、200名を超える尊い人命を奪い、家屋の全半壊など、各地に甚大な被害をもたらしました。私が住んでいる岡山では、18箇所の河川の堤防決壊による洪水により、死者61名、行方不明なお3名、家屋の全半壊7450棟、床上床下浸水は8944棟に及びました。大学空手道関係者の皆様に、被害はございませんでしたか。お亡くなりになりました方々にご遺族の皆様に慎んで哀悼の意を表しますと共に、いまなお家屋を失い、避難生活を余儀なくされておられます被災者の皆様に心からのお見舞いを申し上げます。ただただ1日も早い復旧・復興をお祈りするばかりであります。なにとぞ災害にめげることなく、くじけることなく、勇気を以て、前向きに立ち上がって戴きたいと激励申し上げます次第であります。

自然災害の猛威に、改めてその破壊力の大きさに驚嘆す

ると共に、その被害を最小限に食い止めるために、行政や議会の役割を鑑みるに、常に災害に備え、災害から県民の命や財産を守る施策に取り組んできたのか、天災の恐ろしさを言うばかりで、天災に備えた危機管理とその対策を怠ってきたのではないか、まさしく人災と呼べるものはなかったのか、と反省と後悔の念に駆られる次第であります。

堤防を補強し、時に浚渫をし、草木を伐採し、河川を改修することは、公共工事の緊急性や必要性という今日只今の観点だけではなく、未来の備えのための先見性に基づいたインフラ整備という投資を怠っていたのではないか、大衆に迎合するばかりの、人気取りの施策の陰に隠れて、果たして、「備えあれば憂いなし」の観点が疎かになっていたのではないか、と思慮するところであります。

さて、空手道を通して、心身を鍛練し、以て有為な社会人となり、なお青少年健全育成の指導者として携わる多くの指導者達や、今日ただ今汗を流して、厳しい練習に精進をされている選手の皆様も、今日只今の目標に向かって精進するとともに、将来を見据えて、何をなすべきかもまた考えなければなりません。生涯を見据えた空手道の鍛練もまた視野に入れなければなりません。それは生涯武道の観点でもあり、持続可能な鍛練の在り方でもあります。それは空手道を自らの命輝く原点と為し、共に生きる絆の原点とも為す道であります。

ところで、全日本学生空手道連盟は、本年創立62年目を迎えることになりました。連盟創立は、戦後の新制大学発足後、わずか十年後のことでもあります。私は、昭和37

年入学でありますので、以後56年間に亘り、学生連盟と関わってまいりました。永い空手人生を振り返ってみますと、県連(会長)、中国地区協(議長)、そして全空連としては常任理事として、またかつて高校教師でありましたので、高体連とも関わってまいりました。しかし、軸足は学連であり、迷うことも揺らぐこともありませんでした。

流派・会派を越えて、一つのルールの本、競技を通して、まさしく空手道の技を競い合う試合制度を確立したのも学連であり、ルールに基づいた審判制度にも、先駆的に取り組んできました。誠に、空手道の未来に対して、先見の明があったと申すべきでしょう。そして、大学で空手道を学んだ諸先輩方を中心に、世界に雄飛した活躍により、今日国家的空手連盟の組織は190カ国以上にも及び、空手人口1億人を擁する世界の一大スポーツ競技団体に成長いたしました。本年7月19日、FISU第11回世界大学空手道選手権大会が、神戸市立中央体育館において開催されましたが、空手道の普及と発展のために、血と涙と汗を流された諸先輩の、空手道に駆けた魂の結晶とも言うべきものがあります。大会運営に当たられました全日本学連と中心となって活躍されました関西学連に対し、深甚の感謝を申し上げる次第です。世界大会開催に当たり、中四学連加盟大学並びにOB諸兄の、多大の資金面に対するご支援とご協力に対して、心からの感謝を申し上げます。

中四学連が発足したのは、昭和38年、小生大学2年生の時でありました。以来中四学連の事務局長・審判長・理事長と勤めてまいりました。実に55年間、学連と共に過ごしてまいりました。東京オリンピックを2年後に控え、新たなる学連の発展を迎える時、そして昭和から平成へと繋がり、いよいよ来春は新たな元号を迎える、まさしく時

代のターニングポイントなるべき時、新しい酒を新たな革袋に盛る時がやってまいりました。浅学非才ながら、杉田先輩の後を引き継ぎ、2代目学連理事長の勤めを果たすことが出来たのは、学連の現役・OB諸兄のお支えあればこそでありました。懐かしくも、たくさんの楽しい思い出を共有できたことを心から感謝申し上げつつ、理事長退任の挨拶にさせて戴きます。ありがとうございました。

終わりに、空手道に志し、志半ばにして倒れられた幾多の先輩方に感謝の誠を捧げ、後に続く未熟な私共を見守り下さいますよう祈念しつつ、また本大会の成功を願い、かつ会場提供・大会運営に当たられる広島修道大学並びに大会運営委員の皆様へ深甚の謝意を表しつつ、最後の理事長挨拶に替えさせていただきます。押忍

[平成30年8月19日記す]